

10年後の大東市の産業振興に関する基本指針

スローガン “輝く未来に大投資！個性を育む大東市！”

スローガン達成のための4本柱

「経営者同士が自ら学び気づき合う場の開設」 ～経営者が経営の基礎を学び、助け合い、切磋琢磨する機会の創出～ 10年後を見据え、経営基盤の強化や従業員の人材育成等の取り組みに対して自助努力を行う経営者が増えるようなまちづくりを行うことでさらなる産業振興を図ることができます。そのためには、経営者に対して経営に関する知識だけでなく、企業理念や経営計画の策定や中小企業が地域経済に果たす役割について学べる場を提供するような取り組みを行っていく必要があります。また、その取り組みによる経営者支援により、従業員が大東市内で働くことに魅力を感じるようなまちづくりを行うことも重要です。	「自ら考え、学び合い、働く、個性あふれる若者の育成」 ～産学官連携によるキャリア教育の実践～ 教育や学びを通じて、仕事や働く意義を考えている人が大勢いるようなまちづくりを行い、その人たちが市内企業に関わることでさらなる産業振興を図ることができます。そのためには一人ひとりの人生に対して産業振興の観点から常に関わり、働くことの意義や市内中小企業の魅力を学び、広い視野で個性を活かせる職業選択ができる若者を育て、地域に残すような取り組みを実践していく必要があります。また、家庭での教育・学校での教育・社会での教育を行う中で、教える側の立場の人に対しても企業を知る取り組みや産業に関わる指導方法を学ぶ場を提供することも重要です。
(具体策) ・日々更新される経営知識に関するセミナーを実施する ・商工会議所やその他の中小企業団体が協力して若手経営者育成の機会を作る	(具体策) ・高校生以降にはアルバイト型インターンシップを用いて職業意欲を生み出す ・先生に対しては市内企業を知るきっかけとなる事業を行う ・従業員に対しては他社留学や職業体験中の企画内容の策定や先生役を担うことで学ぶ
「市民と企業のコミュニティから付加価値の高い事業構造を創造」 ～起業、事業再構築および事業承継の促進～ コミュニティ内やコミュニティ同士を繋げ、既存事業の発展、新規事業の創出、また事業承継や経営課題、地域課題の解決も頻繁に行われるまちづくりに取り組むことでさらなる産業振興を図ることができます。そのために起業家同士の新たなコミュニティの形成やコミュニティ参加者増加への取り組みによる新たな交流機会の創出やコミュニティ同士の連携強化のための施策を実践していく必要があります。また小規模コミュニティと企業がつながり、地域課題解決を行うプチ起業家増加への取り組みも産業振興において重要です。	「市内企業の認知度・ブランド力の向上」 ～継続的かつ効果的な情報発信～ 継続的かつ効果的な情報発信方法を策定し、市内企業の認知度・ブランド力向上が生み出されるようなまちづくりを行うことで産業振興を図ることができます。そのためには、大東市全体としての情報発信プラットフォームを構築し、各企業や団体が継続的に情報発信が出来るような取り組みを行う必要があります。またその発信した情報が必要とする人に効果的に届くような機能を持たせることも必要です。そうした情報を基に大東市独自のブランド化に取り組み、市内企業の認知度向上や付加価値の向上を行っていくことが重要です。
(具体策) ・起業家のコミュニティを行政主導で作成し情報交換や経験交流を図る ・コミュニティが一目でわかるマップを作成する ・後継者難の会社と引き継ぎ手の会社、起業家等とのマッチングが出来るプラットフォームの作成 ・協議体や大東まちゼミ等市内での既存の事業・取り組みと連携し、共創していく仕組みづくり	(具体策) ・各団体の情報発信内容が反映されるような総合サイトのようなものを活用し、効果的な情報発信により市のブランド化を行う ・大東市の産業にまつわる「推しポイント」(大東市の企業、人、製品、部品、商品、サービス、工場や店の風景など)を大学生や高校生等の学生達に探してもらい、大東市役所のSNS等で発信してもらう